

會學濟經學大國帝都京

叢論濟經

號三第 卷十三第

行發日一月三年五和昭

論叢

資本利子税及第二種所得税に對する地方附加税の禁止規定
法學博士 神戸 正雄

數學的經濟學
文學博士 米田庄太郎

國際價格の理論
文學博士 高田 保馬

講演

日本に於ける海上保險の起原發達
平生 釵三郎

雜錄

世界の食糧問題
經濟學士 八木芳之助

定期飛行機の職能
經濟學士 山口 信男

女給税に就て
經濟學士 羽根 盛一

國際移民統計
經濟學士 金持 一郎

社會階級の交替性
經濟學士 益田 熊雄

疾病統計瞥見
法學博士 財部 靜治

近着外國經濟雜誌主要論題

(禁轉載)

國際移民統計

金持 一郎

從來我國に於て植民に關する著作の刊行されたるもの少くない。併し乍ら移民に關しては纏りた述作の刊行さるゝもの近時殆んど跡を斷つの有様である。固より國家當面の現實的必要よりして然る事とは思ふが併し移民の重要な決して斯の如く不問に附す可からざるものがある。何となれば從來移民が問題とさるゝ場合は人口問題の對策としてであり、此の場合移民に對する考察は通常我國總人口數との割合に於て見られ、又は多少立入りて出生人口數との割合に於て取扱はれ、然る限りに於て殆んど當然なる決論として移民は何等人口問題の解決への効果を持たずとの判斷に導かるゝを通例とするも、其は極めて通俗的なる見方であり、寧ろ移民は失業人口數との比に於て見らるべき

21) 本表及び本稿の資料にして註記せざるものは各府縣廳の回答書を主とし各府縣の府縣稅賦課規則及び府縣會決議錄に據る。

である。如何に多數の出生あるも假に失業人口なき場合ありとするならば、移民は人口問題（それ自身が既に發生しないかも知れぬが）に關する限り何の意義をも持たないであらう。更に移民の重要なは直接に人口問題の對策としての意義のみに止らない。移民は國內人口の幸福なる消滅を以て見らるべきでは無く、其は第一に移民の送金を以て第二に資本の投下を以て見らるべきである。移民の送金は殊に我國の如き貿易外收入に依頼する國に於て効果を持ち、然らざる場合と雖も國內に失業人口の存在する時は其の意義は輕くない（此の事はヨリ精細なる究明と叙述を必要とする。暫く之を措く。）資本投下は海外移住に必然的に隨伴する現象であり、其は會て言はれし如く資本の消滅を意味せずして新なる利潤の發生を意味する。其が特に重要な意義を持つは國內に遊資の存在する場合である。斯くて移民の重要なは、何等かの利益追及の目的を假定する限り多言を用ひずして明かである。然るに我國に於ける移民研究の不充分なる、未だ満足す

べき移民統計をだに有せざるの有様である。此の時に於て最近（一九一九年五月）米國に於て發刊されたる國際移民統計（International Migration. Vol. I Statistics）は吾人今後の研究に對して少からざる意義を有し、世界に於ても亦此種の統計書の欠如せる今日之が與へるであらう處の貢獻は蓋し頗る大なるものが有るであらう。今左に其の編纂の經過と内容の梗概を記し併せて單簡なる意見を附加する事とする。

二

本書成立の經過を見るに序言（Preface）に記される如く初め合衆國の社會科學調査委員會（Social Science Research Council of a Comitee）は國際移民（International Migration）に關する統計的研究の計劃を可決し其の編成を國立經濟調査局（National Bureau of Economic Research）に委託した。同局は更にウイルコックス博士（Dr. Wilcox）に此の調査を組オルガナイズ織し管理ディレクトせんことを求めた。同博士は國際的協力の贊助を得て此の計劃を進むべく瑞西ジュネヴァに赴き此處に國際

労働局(International Labour Office)の援助を得る事が出来た。國際労働局はその中の移民部(Migration Section)に依て現今移民統計を進歩さすべき重要な開拓者の仕事を既に成し遂げて居た。平和條約の認むる處に依て、労働局は移民統計に關與せる諸國の官廳と直接の且又精神的の關係を既に打立て、居り、又速かに打立つべき地位に在つた。斯くて同局は戰前に迄遊りて此の調査を進む可く極めて好都合の地位に在つたわけである。茲に於て國立經濟調査局は必要なる資金(三萬法)の提供を申込み、其の同意を得る事に依て國際労働局に本書の編纂を委託した。國際労働局はフランシ博士(Dr. J. Ferenczi)をして直接の責任者として本書編纂の任に當らしめた。形式上斯くして成立せし本書は夫故にフランシ博士の著であり殊に緒論及註に於て然るのであつて、ウィルコックス博士は單なる助言者であり出版者であり國立經濟調査局と國際労働局とを連絡する一の代理人に過ぎないのである。

今本書の構成を見るに、勿論本書は表題の示す通り

一の統計書なるが故に其の主たる部分は統計を以て充されて居るのであるが、而もウィルコックス博士が序言に言へる如く其は單なる統計書たるに止まらず統計に依る處の實證的研究であり、且一の移民史でもある。其は三部分に分たれる。第一の部分は緒論であり、第二の部分は(本書に於ては Part I. とされて居る)十九世紀及二十世紀に於ける無産者の大量移動に關する史的概觀であり、第三の部分は(本書に於ては Part II.)移民統計表である。第一の部分は又四節に分たれる。(1. Introduction. 2. General Introduction to the National Tables. 3. General Introduction to the International Tables. 4. Introduction to the Historical Survey.) 第一節は本書成立に至る迄の經過・資料の蒐集仕上げ・活動の状態・統計的方法の説明等が詳細に記述されて居る。其に依れば、國際労働局は既に一九二二年の國際労働會議(International Labour Conference of 1922)の勧告に従て移民統計編成の方法に關する報告書("Methods of Compiling Statistics of Emigration

and Immigration," Geneva, 1922) 及び人口移動に關する最初の年報 ("Migration Movements, 1920-23," Geneva, 1925) を發表して居た。從て國、經濟調査局の申込は眞に國際移民統計の名に値するものに向つて一步を進むるの機會を與へたのである。國際労働局長アルベール・トーマ氏 (Albert Thomas) は國際労働機關 (International Labour Organisation) の理事會 (Governing Body) に對して國立經濟調査局の提議を承諾せん事を勧誘した (一九二五・一〇・四)。此の申出は理事會に依て採用せられ同年九月中旬 (上の二つの日附の何れか) が恐く誤りであらう) フランジ博士が此の仕事に任命され、直に最初の計劃に取掛つたと記されて居る。

斯くて資料の蒐集は開始された。採られたる蒐集の方法は次の如くである。

一、國際労働局と加盟國との間の通信

二、統計局及他の適當なる權威者及専門家への依頼

リウヴァン

三、歐洲の指導的支庫及圖書館に於ける調査
四、此の著作の出版者 (ウ博士) 及び國際労働局のワシントンに於ける代表者達の盡力。(P. 56)

國際労働局は設立後年尙若き爲、初期の書及び國際移民に關する數字を提供すべき記録を有しなかつたが故に加盟國に廻狀を出すの必要に迫られた。加盟國は心よりの受諾を與へたが而も尙、必要とさるゝ例外的な資料は誂へ向きに利用さるべきもの無く、又容易に得らる可くも無かつた。ために著者は一九二五年十月ローマに於ける國際統計調査所 (International Statistical Institute) の會議に臨んだ。此處で此の調査を論議し、此處で多數の統計局及び移民局の官吏に會ひ助力を乞うた。此の接觸は直接の通信への橋渡しと成つた。必要なる統計書は快く貸し與へられ、歴史的諸表は最大の注意を以て作成された。斯くて十分なる準備の成れる後筆者は八回の旅行をなしその資料を検討すべく次の如き文庫及圖書館を歴訪して居る。

London: British Museum Library, Public Record

Office, Foreign Office, Home Office, Board of Trade, Colonial Office, Overseas Settlement Department, Offices of the High Commissioners for Australia, Canada, New Zealand, and South Africa, the Royal Statistical Society, the Royal Colonial Institute and the Imperial Institute.

Paris: Archives Nationales, Bibliothèque nationale, Archives du Ministère des Colonies, Ministère du Commerce, Préfecture de la Police, Statistique générale de la France.

Strassburg: Archives du Département du Bas Rhin.
Berlin: Preussisches Geheimes Staatsarchiv, Preussische Staatsbibliothek, Statistisches Reichsamt, Archiv des Ministeriums des Äusseren.

Hamburg: Kommerzbibliothek, Staatsarchiv.
Bremen: Städtisches Archiv, Bibliothek der Handelskammer.
Vienna: Staatsarchiv, Staatsbibliothek, Universitäts-

bibliothek, Bibliothek des Bundesamtes für Statistik.

Budapest: M. Kir. Központi statisztikai Hivatal Könyvtára (Library of the National Statistical Office) [p. 57-58]

406. 212. 52. 52. 52. 52. British Representative on the Governing Body of the International Labour Organization; Several libraries and archives; Ministry of Labour; Statistical Department of the Board of Trade., 111. 111. 111. 111. French Colonial Ministry; French Ministry of the Interior; (the Police Prefecture of Paris 警察内務省) 111. 111. 111. The representative of the German Reich on the Governing Body of the International Labour Office. 伊本利に於ける General Emigration Office (カヤーンに於ける State archives) 111. 111. 111. Director of the Statistical Office. 警察内務省 Swiss Emigration Office. 警察内務省 Canadian Government; Canadian archivist at Paris; Public Record Office at London. 警察内務省

Japanese delegation at the I. L. Organization. が資料の提供内容の検討に至大なる助力を與へたる旨が記されて居る。而して著者は移民の如き國際的現象はあらゆる點・ち(移)出國・通過國・(移)入國に就て検討して始めて完全なる結果を期待し得べきが故に、斯る統計書の編纂に當つてもあらゆる關係國民の連帶觀念に訴ふるの必要があると叫んで居る。

斯くして資料の蒐集を爲す間に從來顧みられざりし重要な資料・消失し居たりし又は未發刊の資料・更に又從來發表されたる如何なる資料よりも正確なる資料等の新なる發見に依て本書は一層の意義を持つに至つて居る。併し乍ら其等のものにして本書所定の大きさ及び所定の年代(十九世紀—二十世紀)等のために惜しくも記録されずして終りしもの有る事を著者は報じて居る。

次は資料の仕上げ (Elaboration of Materials) である。資料は之を二つに仕上げたと著者は言ふ。後の部分は狹義の官廳統計に依て主として十九世紀に於ける

國際移民統計を作成し、前の部分は同一の材料を説明的形式に依て歴史的註釋を附して掲げやうとするものである。而して此の仕上げに至る迄に著者は或は統計の根據となれる レゾスレイション 法 アドミニストラチフラクチス 令 或は行政の實際或は海外旅行統制に關する法令の如きを迄も研究した。從て單なる統計の蒐集の如くに見ゆる後の部分に於てさへも次の如き方向に沿ふ努力が拂はれて居る。

- 一、諸國に於て利用し得らるゝ限りの累年の統計表を發見する事、
- 二、幾つかの比較可能の統計の出處が在る時は何の統計表が最も利用さる可きかを見出し且之等に欠けたる部分ある時は補充の源を發見する事、
- 三、同一の事象に關する總ての統計を發見しさうして其の比較的の價値を發見する事、
- 四、各國の統計が其に基いて編成されて居る處の相異なる立法的及技術的基礎を發見する事、——種々の期間に於ける其等の價値を評量せんが爲めに

而して著者は言ふ「最大の困難は統計表作成の基礎として採られたる定義と統計方法とを官廳刊行物に依りて決定する事であつた」官廳の報告には多數の矛盾が有つた」と。之等幾多の困難を克服し表の作成を打ち切りしは一九二七年二月一五日。斯くて集成せられし表は總計六四三、之を大陸別に分つならば亞米利加一五〇、歐洲二八八、亞細亞五七、大洋洲七五、亞弗利加七三であり、一一六の國或は政治的區劃に及んで居る。之に國際比較表(International Tables)三四八表を加ふれば計九九一表。更に一六個の圖表を添ふる。實に尠大なる統計書と言ふ可きであらう。

扱之等の統計表は主要なる二部分に即ち National Tables (國別表) と International Tables とに分れ其大部分は先に言へる如く本書構成の第三の部分に置かれて居る。今此の統計表に就て見る時は National Tables に於ては資料の種類よりして Migration Statistics, Port Statistics, Passport Statistics, Frontierstatistics 等に分れ、其等は又移住者の自然的及社會的性格に從て

Nationality, race, sex, age, occupation 等の諸表に分たれる。年次の早きは一八二〇年に始まり最後は一樣に一九二四年に終る。各國毎に編輯し各國別に其の統計表の出處を記し必要な注意を加へてある。特に注意を要する計數に對しては各國別の最終に註を加へて参照の便を與ふ。用意の周到なるを多とせねばならぬ。之に對し International Tables は次の目的を以て編成されたるものである。

- (a) 國際的比較を通じて諸國に於ける移民の波の明瞭なる映像を與ふる事、
- (b) 國際移民統計の方法と定義の、及び移民に關する知識の蒐集の、成長と展開を明かならしむる事
- (c) すべての國に於ける一樣なる統計方法の將來の發展を容易ならしむる事 (p. 72)

此の目的よりして明かなる如く基本的なるものは National Tables であり Intern. T. は之より誘導されたる副次的なる表であると見られ得るであらう。此表に

於ては移民を Homogeneous な八個のグループに分類せられて居る。即ち

- (1) overseas emigration of citizens. (2) continental em. of c. (3) overseas imm. of c. (repatriation)
 (4) Continental imm. of c. (rep.) (5) overseas em. of aliens (generally returning to their country of origin) (6) continental em. of aliens (generally r. to their country of c.) (7) overseas imm. of a. (8) continental imm. of a.

尙本表は絶対數のみならず殆ど交互にパーセンテイヂを算出する。たゞ此のパーセンテイヂは各國の移民數を一〇〇としたる其に限る。多數の註が附せられて居ること National Tables の場合と同様であるが各表に亘りて其の統計の出處を記す事は徒に煩雜を招くの惧あるを以て之を除き National Tables の其に譲つて居る。

最後に無産者の大量移住 (Proletarian mass migration) がある。無産者の移住は移民の主たる部分を占

むる。從て又本書の記述部分の力點は此處に置かれて居る。内容を二に分つ。(第一) Intercontinental emigration according to national statistics. (第二) Migrations according to international statistics. 此第二のものも更に之を二つに分つ。(1) intercontinental movements (2) continental migration 此の第二の(1)の部分は大陸間移民に關する複雑なる事象を簡單なる敘述を以て表現し手際よく纏められたる統計表と圖表とが掲げられて居り既述の International T. の不十分なるを補ふに足るであらう。第一は各國に就て無産者移動の狀況を歴史的に考察しあり世界人口の國際的移動も之に依て概觀し得るであらう。擧ぐる處の國十七、我國に對しても亦七頁を割きて日本移民の歴史的發展と其性質の概要を記述する。好箇なる實證的史的研究と言ふべきであらう。

三

以上に依て私は大體筆者の企圖の輪廓を寫し得たかと思ふ。依て若干の希望と意見とを表明する事とす

る。

一、先づ移民の定義である。定義は手段である。統計表の作成には定義を重要視する。彼は移民^{ミグラーント}に關し出來得る限り廣き定義を採る事とした、即ち一國より他國へ住居を變へるあらゆる人々を含むのみならず假令到着地が植民地であるとするも一年以上其處に定住するの目的を以て一の大陸より他の大陸へ其の住居を變へるあらゆる人々を移民とした(註. 55)。此の定義は先づ次の如き點に於て欠陥を持つ、例へば臺灣への或は臺灣よりの内地人の移民は一の大陸より他の大陸への移民に非ざるが故に上の定義よりすれば正に棄却すべきである。而も^{イミグレーション} Immigration and Emigration of Japanese into and from Formosa (p. 940)——但し emigr. from Formosa は暫く措く——として採録せるが如き矛盾を生ずる。些細なる不注意の結果としての表現の不備より來ると思ふ。

次の問題は移民^{ミグラーント}を斯く廣義に解する事の妥當なるや否やである。移民^{ミグラーント}(或は移住^{ミグレーション})に關しては通常一

國家の領土より他國家の領土への住居の轉移を指すものとせられ、移住者^{ミグラーント}(又は移民)は斯る住居の轉移を行ふ處の人を指すものとされて居るやうである。ランチ、ケプナー等の如きは之に屬すと見られ、其他明瞭に表現せざるも間接に同様な著者の見解を推知せしむるものが有り、一般に之を以て通説と見らるゝやうである。今假に國家學大辭書に示されたる見解を以て優れたる意味に於ける通説と見るならば、其處には次の如く記されて居る。

„Im Gegensatz zu der menschlichen Wanderung, die sich innerhalb der politischen Grenzen eines Landes vollzieht, versteht man unter *Auswanderung* das Verlassen eines Staatsgebietes, um sich in einem anderen niederzulassen“ (Handw. d. Staatsw., die Auf., Bd. II, S. 60)——, „Einwanderung“ (S. Bd. III S. 491)に就ても見解は同様

吾國に於ては山本博士を始め、泉、松岡、稻田、大鹽、淺見、山内(正瞭)氏等は通説を採つて居らるゝが

矢内原教授は此の通説に反し移民と植民との間に本質的區別を否定せらるゝ(植民及植民政策八頁)。私自身は移民と植民との區別に關する通説に多少の不充分さを認めるものであるが而も移民と植民との間に本質的區別を認めざる説よりも通説は斯る社會現象の本質をヨリよく把握せるものと考へる。私は移民と植民とは其が人口の移動を示す限り現象の形態に於ては何等の差異はないと思ふ。而も之を國家の立場より見る時は其本質に於て全く異なる。一は植民的であり他は非植民的である。然らば言ふ處の植民的とは何ぞ。私は之を以て一の特殊なる形態に於ける利益取得と見る。此の事は併し乍ら更に精細なる究明を必要とするが故に暫く之を他の機會に譲る。とまれ私は移民と植民との間に本質的差異を認める。其は便宜に基く概念構成上の問題ではなくして歴史的事實の示す處である。今移民を斯く見る時は移民者(移民)は一國より他國に住居を移す者でなければならぬ。然るに本書に於ては母國より植民地への移住者即ち植民者(Colonist)

を移民といふ。其の理由として筆者は「三世紀間に於ける歐洲よりの多數の移(出)民が、初め奴隸としての亞弗利加よりの移(出)民に依て、後には亞弗利加・亞細亞・ポリネシアよりの半自由移民(semi-voluntary em.)及び契約移民(indentured em.)に依てくい止められたるが故に、之等移民の流れをも考慮に入ること命ぜられた、夫故に云々」と言つて居る。理由寔に薄弱である。此の兩者に區別を與へずして同様に取扱ふことよりして本書の價値が多少殺がれはしないか。此點に於て本書は誤解を避けんとせば移民統計と言はんよりは寧ろ人口移動統計と言ふの勝れるを思はしめる。たゞ本書に於ては植民地への又は植民地よりの移住は之を他國家への又は他國家よりの移住と大體に於て表を別つて取扱つて居るが故に必要なる移民統計を得るための困難は少からうと思ふ。

尙大陸間の移民が現在の研究に取つては其の前景を占むるものであるが、而も同一大陸内の移民も亦看過するを得ずとなし之を大陸間移民と同様重要なる項目

して取扱へるは正しき見方である。併し乍ら其は同一大陸内に於ける現象なるが故に重要なに非ずして夫々特異なる性格を具へたる國と國との間に行はるゝが故に重要な所以なる事も之を銘記しなければならぬ。

又本書の初めの企圖は國際移民(International M.)のみを取扱ふ筈であつたが、フランス人のアルゼリア移住、ロシア人のシベリア移住は國際的移民に非ざるも大陸間移民であり而して其は英人のカナダ移住及びオーストラリア移住と相似たる(analogous)が故に記錄の得らるゝ限りは大陸間移民を國家間移民と同様包含せしむるに決したと言つて居る。著者の意見は必ずしも明瞭でないが、文意よりして英人のカナダ移住及オーストラリア移住は國際的移民と考へられて居るやうである。然る限り其は(斯く解する限りに於ては)佛人のアルゼリア移住、露人のシベリア移住とは本質的に異なるものと見なければならぬ。相似たるに非ずして相似ざる、比喩的に言はゞ寧ろ homologous なるものと

して取扱はるべきであらう。

二、編述の順序に多少の更改を行ふならば更に完全なるものと成るであらう。即ち大體に於て著者の方針を襲踏するならば先づ本書編成の經過報告に關する部分と彼の所謂註解的部分——記述的部分と純統計の部分との三部を明瞭に區別するか、然らずんば統計の部分と分を全く記述的部分の中に挿入するを可とするであらう。而して總觀的考察より個別的考察へと進むならば先づ International Stat. に依る移民を敘述し次に National Statistics に依る移民の敘述をなす可きであらう。本書に於ては此の順序が轉倒されて居る。後の統計表の配置より見て之は再び轉倒さるゝを要する。

三、"International Tables" と "National Tables" との區別も此統計表より見る時は論理的理由極めて薄弱である。"International" の意味に對する理解の不充分さを思はしめる。"intercontinental" に關しても然り。著者による時は其は「一大陸と他大陸間の」なる意味を持たず「一國と他大陸間の」なる意味を持つに過ぎぬ。

而も其の場合の一國はその屬する大陸を代表するものではない。

四、眞の intercontinental な移民の統計はない。之を著者は不必要なりと見しや。不可能なりし爲なりや。私は調査の、又は資料蒐集の可能なる限りに於ける一大陸より他大陸への、或は農業圏より商工業圏への・又は原始生産的地域より近代生産地域への人口移動に関する統計の作成も亦少からざる意義を持つと考へる。

五、著者はアイルランドが分離せし後も、従前の British Kingdom の統計を形式上繼續せしめんが爲に British Isles としてアイルランドの移民と包含する統計を作成して居る。先に國立經濟調査局より米國商務省内外商務局 (Bureau of Foreign and Domestic Commerce in the United States Department of Commerce) の取りし區分け (order) を採用せん事を提議せられし際、著者は此の區分けが専ら地理學的 (exclusively geographical) にして國民性 (citizenship) を無視するも

のとして排斥したのであるが茲に於て著者は尙餘りに地理學的 (too geographic) なるの非難を逃れ得るであらうか。

六、職業の區分に就ては著者は之を六に分つ。(1) 農業 (2) 工業及鑛業 (3) 運搬業及商業 (4) 奉公 (domestic service) 及一般勞働 (5) 自由業及公職 (public service) (6) 他の職業、無職若くは不明 (occip. unknown)。初の計劃にては上述の六個の主たるグループの各の中に於ける明細なる區分の表を附録として印刷する筈であつたが、限られたる余白への考慮 (其はタイプライターで打たれたる二五頁を要したといふ。) と或報告は急速に且ルーズに集められたる爲科學的價値に乏しとの確信より筆者は斷然此の計劃を放擲したといふ。併し乍ら其は正に必要であり有用である。内容の不正確なるものに就ては一々之を指摘する事に依て發表せらる可きであらうと思ふ。

七、統計表を記載すべき紙型は更に大なるを必要と

する。一表にして數頁に亘るものは計數の比較を困難ならしめる。統計表の配列に就ても尙工夫を要すべき點あるべし。

八、本書の構成全體より受くる感じは尙 rough なるを逃れぬ。

以上は統計學に門外漢なる私の寸見に過ぎない。統計學者統計専門家の眼より見る時は更に雜多の缺陷が覺められるであらう。併し乍ら如上の缺陷にも係らず本書は一千に垂んとする統計表を包含し、卷末に文獻と索引を加へ、統計の出處を明かにし、特殊の計數に對しては必要なる補註を加ふる等十二分の注意を以て各國移民の概觀を與ふるの便に供せしは筆者の該博なる知識に依ると共に又其の甚大なる努力の賜物であると言はねばならぬ。内容の正確さに就ては筆者自ら少からざる自信を有し、例へば日本及合衆國に關する限りに於ては從來發表されたる如何なる統計よりも正確であると斷言して居る。(“Complete and up-to-date

statistics relating to Japanese possessions are also published in this volume for the first time. (p. 60)”—
“The present series of American migration statistics is probably more nearly complete than any heretofore published in the United States” (p. 59) 加ふるに不偏不黨の立場に在りて偏見を持たず宣傳を行はざるを (in a scientific and impartial manner, free from biases and propaganda.) 標榜する國立經濟調査局の出版なる點に於て一層の信頼を掛け得るかと思ふ。尙本書は「國際移民第一冊統計」として刊行され居る處より見て今後尙移民史移民論等廣大なる研究の企圖あるを思はしめる。願はくは其等の刊行と相俟つて此の劃期的出版が國家の動きを其の全體性との關聯に於て移民の一角より把握せんとする吾等の研究により多くの光を與へるであらう日の到來せんことを心ひそかに祈るものである。

—(終)—